

# そらこめ通信

No.13 2011.8発行

日頃より弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

さて、8月に入り水田の方も収穫に向け後半戦に突入しました。7月の天気も今のところまずまず…。今年は昨年と比べて分けつ(株分かれ)がやや進んでいるようで、収穫量も少しは期待できそうです。

実はこの原稿を書いている傍らで、新潟県や、栃木県、福島県などに大雨洪水警報が出ており、テレビのニュースで現地の惨状を報道しています。地震と津波、さらには原発事故など大きな損害があり、それらの收拾がまだついていない中で、追い討ちをかけるような仕打ち…。自然が創った脅威とはいえ、地元の農家にとってあまりにも厳しい事態に正直言葉が見当たりません。果たして自分たちがこういう状況に置かれた時、再生できるのだろうか…と、つい考えてしまいます。

まあ、あまり考え過ぎてもしようがないですね。北海道に住む我々には、自分たちが今果すべき役割があります。それらをきちんと果すことが何より重要な事なのだと思います。



近くを流れる河川「ポンポンニタシベツ川」の改修工事から出る残土を役所において貰い受けています。残土の受け入れは、低い水田のかさ上げに効果があるほか、滋養分を多く含むこれらの土を入れる事で、客土としての効果も期待できます。



豊かな水源に感謝して水神宮に参拝する地元農家～毎年の恒例行事です(7月1日)

水田農家にとって最も重要な資源は「水」。私たちの地区「更新3」の農家は、この「大枝沢ダム」の恩恵を受けています。毎年、この時期に豊富な水源に感謝して地域の農家が水神宮に参拝しています。



緑肥「えん麦」のすき込み作業(7月18日)



ソバの花～きれいでしょ(笑)  
7月25日撮影



今年初挑戦のダリアの栽培～先端の芽を摘み取る「摘心仕立て」(7月11日)



余剰米の積み出し作業(7月7日)



出穂(しゅつすい)した稲穂(7月25日撮影)。若い籾から出ている白い花のような物は「おしべ」。ひとつの籾から6本の「おしべ」が出ます。「おしべ」が出る時に花粉が飛び、同時に籾の中にある「めしべ」が受粉します。受粉は午前中の2～3時間で終了。受粉が終わると籾は閉じ、二度と開くことはありません。積算温度や気象状況にもよりますが、受粉後、50日前後でお米になるといわれています。

これからも安全で美味しいお米の生産に努めますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願いたします。

インターネットで美味しいお米♪

(株)空知こめ工房 ホームページ

<http://www.sorachi-kome.jp/>

「生産日誌」日々更新中です(見て下さいね)



農作業の合間に、グループ会社から依頼を受けた土地の草刈作業(7月18日)～こうした仕事も重要です。